

第44回長崎県障害者技能競技大会（アビリンピック）

家具課題

第44回 長崎県障害者技能競技大会

家具種目競技課題：置き台

次の注意事項及び仕様に従って、課題図に示す作品（置き台）を製作しなさい。

1. 競技時間

- (1)標準時間：3時間30分
- (2)打切時間：3時間45分

2. 注意事項

- (1)支給された材料が、「4. 支給材料一覧表」のとおりであることを、競技開始前に確認すること。
材料に異常があれば申し出ること。開始時間後は、原則として再支給しない。
- (2)使用工具は、「5. 使用工具一覧表」に指示したもので、正常に整備されたものを使用すること。なお、競技中は工具の貸し借りは禁止する。
- (3)作業服は、作業に適した服装であること。
- (4)作業中は、整理整頓及び機械・工具の取り扱い等、安全作業を徹底すること。不安全作業の場合は、状態に応じて減点する。
- (5)標準時間を超えて作業を行った場合は、打切時間以内において、延長時間に応じて減点する。
- (6)完成品のみ提出を認めるものとする。完成したら、審査委員に申し出ること。

3. 仕様

- (1)天板と板脚の接合は「5枚組」及び「あり組」とする。
- (2)板脚（5枚組接合側）と貫の接合は、「通しほぞ仕口」とし、ほぞ先は「大面取り」とする。
- (3)板脚（あり組接合側）と貫の接合は、「目違い付ほぞ仕口」とし、ほぞ先は「大面取り」とする。
- (4)板脚下端は脚先面を取ること。その他は糸面とする。
- (5)仕上げ削りは、かんな削りとする。
- (6)埋木等補修はしないこと。

4. 支給材料一覧表

No	品名	寸 法 (mm)			数 量	備 考
		厚さ	幅	長さ		
1	天板	20.5	× 200.5	× 380.5	1	支給材は機械鉋削りしたもの
2	板脚 (5枚組側)	20.5	× 200.5	× 180.5	1	〃
3	板脚 (あり組側)	20.5	× 200.5	× 180.5	1	〃
4	貫	20.5	× 60.5	× 390.5	1	〃

5. 使用工具一覧表

(1) 競技者が持参するもの

No	品 名	規格・寸法	数量	備 考
1	のこぎり	210~270mm	適宜	替刃式・胴付鋸も可
2	平かんな	中、仕上げ	各1	
3	追入れのみ	9~42 mm	適宜	
4	突きのみ	9~30 mm	適宜	
5	差しがね		適宜	
6	スコヤ	200 mm 程度	1	
7	け引き		適宜	
8	白書き		1	
9	げんのう		適宜	木槌も可
10	打ち当て		1	当て木
11	鉛筆		1	
12	砥石	仕上砥、中砥	適宜	
13	油つぼ		適宜	
14	クランプ		適宜	

注1 同種のもを予備として指定数量以上持参することは差し支えない。

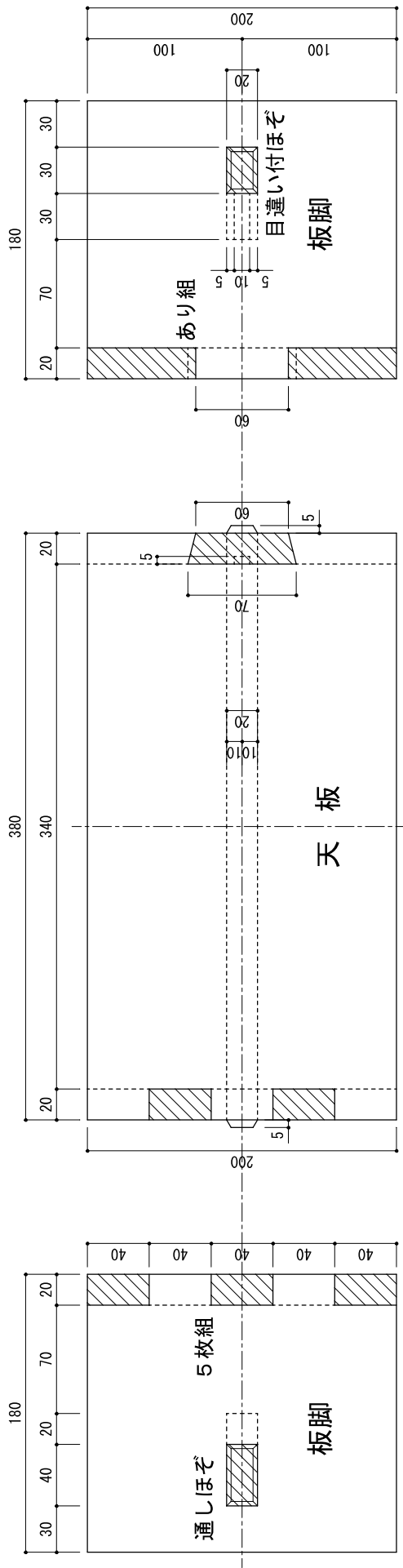
注2 一覧表に記載されていても、競技者が必要ないと判断した工具については、持参しなくてもよい。

(2) 競技場に準備しているもの

No	品 名	規格・寸法 (mm)	数量	備 考
1	作業台	幅 1820、奥行 910、高さ 730	1	
2	削り台	幅 230、長さ 2000、高さ 125	1	
3	摺り台	幅 125、長さ 650、高さ 30	1	
4	はたがね		各種	必要なとき申し出ること

第44回 長崎県障害者技能競技大会

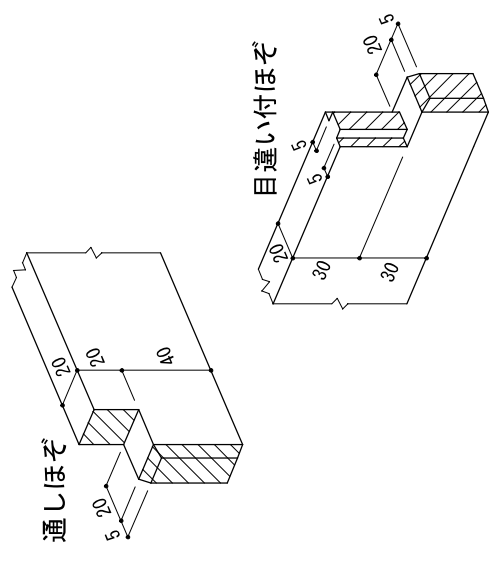
課題図 家具種目競技課題：置き台 縮尺：1/4



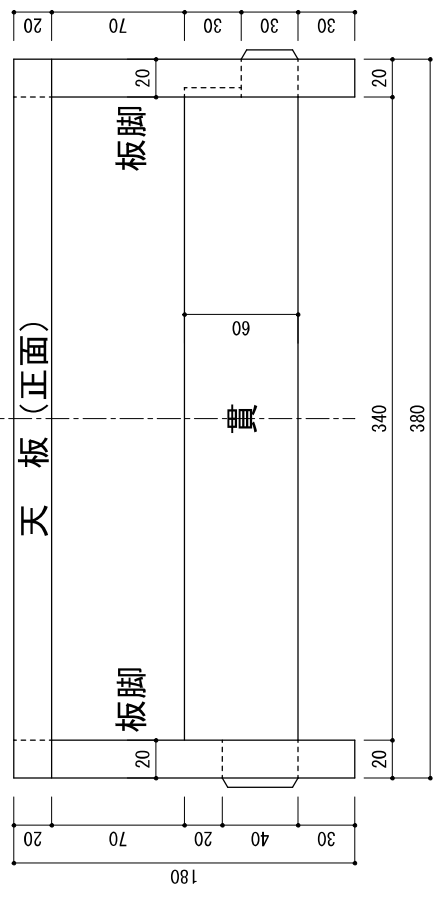
左側側面図

上面図

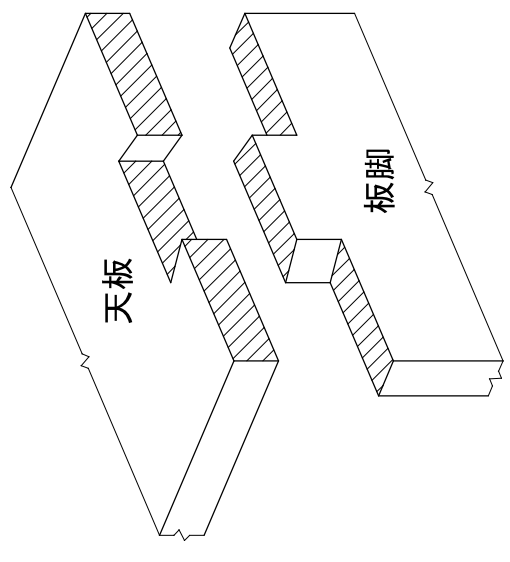
右側側面図



貫詳細図



正面図



あり組詳細図

第44回 長崎県障害者技能競技大会（令和4年7月9日（土）実施）

家具種目競技課題：置き台 【用語】

No.	用語	解説
	(課題文 P1)	
1	仕様	①物事をする方法。しかた。やりかた。 ②機械類や建築物などの構造や内容。
2	天板（てんいた ・てんばん）	机や棚などの上面の板。
3	板脚（いたあし）	机や棚などの脚。面状（板状）脚。
4	貫（ぬき）	2つの縦の部材を、横に貫いてつなぐ部材。
5	仕口	木材と木材を90度に接合する方法の総称。仕口には様々な種類がある。
6	5枚組	仕口の1つ。3+2の凹凸（おうとつ、でこぼこ）の形状を作り、接合する。
7	あり組	仕口の1つ。凹凸部分を「ハの字=あり（蟻）」の形状で作りに、抜けにくくした接合。
8	通しほぞ	仕口の1つ。凹凸において、「凹=ほぞ穴（穴）」、「凸=ほぞ（出っ張り）」とし、穴を貫通させ、ほぞを長く差し込んだ接合。
9	下端	その部材の下の面。※上端・・・その部材の上の面
10	脚先	板脚が地面と接する部分。脚の先っぽ。
11	面を取る	材料の角が90度のままではなく、かんなを掛けて、角を取り、面を作る。
12	糸面	「面を取る」作業において、小さな面を作ること。かんなを1回掛ける程度。
13	仕上げ削り	最終仕上げ用のかんな削り。
14	かんな削り	かんなを使って、木材の表面を薄く削ること。
15	埋木	木材と木材の接合後に、隙間が空いてしまった場合に、他の木材を使って、その隙間を埋めること。その埋める木材を埋木という。
	(課題文 P2)	
1	追入れのみ	「のみ」の一種で、小さい木材を加工する際に使用するもの。げんのう（かなづち）を用いて使用する。
2	突きのみ	「のみ」の一種で、木材の表面等を薄く加工する際に使用するもの。げんのう（かなづち）は用いず、手や腕の力のみで使用する。
3	差しがね	直角定規のこと。
4	スコヤ	小さな直角定規のこと。
5	け引き	材料と平行に、木材の表面に筋（刃物傷）を付ける道具。鉛筆で線を書く行為の代替行為。
6	白書き	木材の表面に筋（刃物傷）を付ける道具。鉛筆で線を書く行為の代替行為。
7	げんのう	かなづち（金槌）のこと。
8	打ち当て	なかづちで木材の表面を直接たたいた際に、表面に傷や打痕がつくのを防ぐ当て木のこと。
9	砥石	刃物を研ぐ際に用いる石。
10	油つぼ	刃物を研いだ後に発生するサビを防ぐための油が入った容器。
11	クランプ	材料を作業台などに固定する道具。
12	摺り台	かんな削りをする際に用いる台。小さい削り台。
13	はたがね	材料を作業台などに固定する道具。または、材料と材料を寄せ合わせる道具。
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		